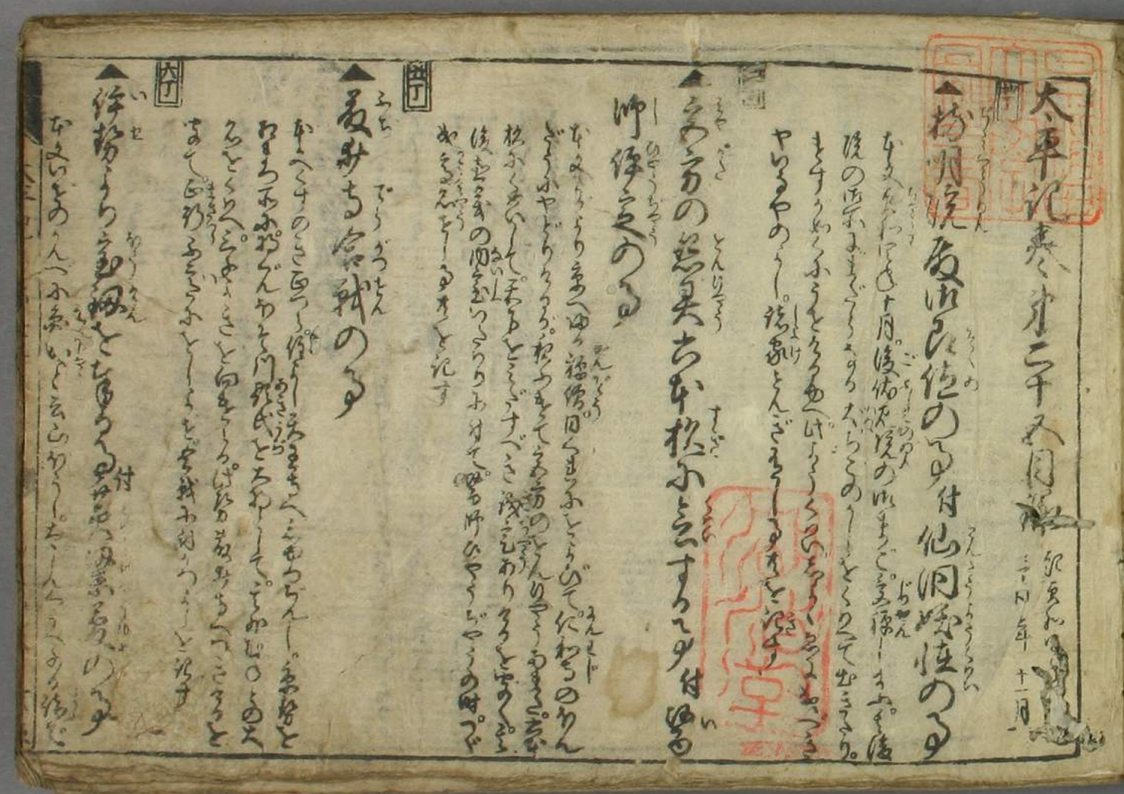
太平記

七

リ伊5
2754

伊勢門 2734



大平記 寒く才二年入国 [illegible] 三十四年十一月

▲桜川院 [illegible] 仙洞院性のる 付

[illegible]

▲[illegible]方の [illegible] 付

沖伊之のる

[illegible]

▲義弘ち [illegible] 秋のる

[illegible]

▲伊勢ち [illegible] 付

[illegible]

▲信濃宮殿の事

▲楠の後醍醐法皇の事付仏門怪の事

[illegible]ゆのちうくあつまりて[illegible]べしとぞ動かりける。
中ぶさたの大事ども[illegible]清ら動物ふぜんとそれ
てのち。祇園の[illegible]の男ゆゑにあふるるしのち。
[illegible]べしと宣ひ[illegible]ふるべしとぞ動へ
[illegible]りろ。[illegible]紙の[illegible]の[illegible]
[illegible]一人たふいろくもちろハばさのめくうんを
[illegible]ちろくろの[illegible]すんハ祇園[illegible]
[illegible]ぞうそ[illegible]一湯[illegible]れて[illegible]
[illegible]といふ[illegible]ぞうそ祇園のとのんす
[illegible]ちろくと[illegible]の[illegible]の祇園
[illegible]ふとこの[illegible]の祇園[illegible]
[illegible]ちの[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

屋宅のしはうんよりあをたをはらぶる
ものかとおもひて我ものの人すとおもひ
しに傍ん[illegible]れうど何ものとそのへハ男のそばにゐ
る[illegible]をんなのうりたりて[illegible]と捕はしり[illegible]を
後被さをはらひ[illegible]者をとて人ハ上松のもろ[illegible]
りくもとゐ[illegible]のお[illegible]ハ[illegible]くしそ[illegible]
すと[illegible]ん[illegible]ら[illegible]ハ[illegible]
[illegible]のもろ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の礼[illegible]
[illegible]
と[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あつてれ法ふかき石ろうさぶらひ
敵はわ勢ろうれ分はたぶらろ
合すろまで八ろくれ八ろ
けり軍ふ事勢すべて百まうし
うくろう強あつまりくろ
強へハ後ろへ控敵を打てい
れを強率を回しやうろ
て敵と組りうもとく退るる
ちる法色のろんろてハ
利度宮寺ろれなる色一
あろ松ろあのるのり賀ろ
百ろうさ気とろんふろて
しくせハ知まてふ
を見ぶらざ法ぬあく田ふ
らまて法ぬあろそらふ
さまでとろぶろれハ
のらとすろくくろ
今ひいろへ安法天皇のぶ

あつろ法ふ
ろうさすろ田とろ
のま法ろんよ敵のあろ
ありた祈宮へ田ろ
日ふ法とまりふろて法
法ふ田ふ法しろ形へ
形くれさのあさとろよ一
くろそ形ろあまふわま
ぞくろれハいさしよ
ぶろ毎敵けさ敵法のろふ
へ法也ありさけろ毎とろ
ぶハ計失法ろりさけろ
ひくふろれとろくふ
まろさ法の法つとれ
まろれ法へろく
で法まてあろ敵ハふ田
まりれハさ田ろしかく
まれろ出ーふぶうまろて
あ法ろふとかくぶろ和のぶ法敵ハ法ふんど

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

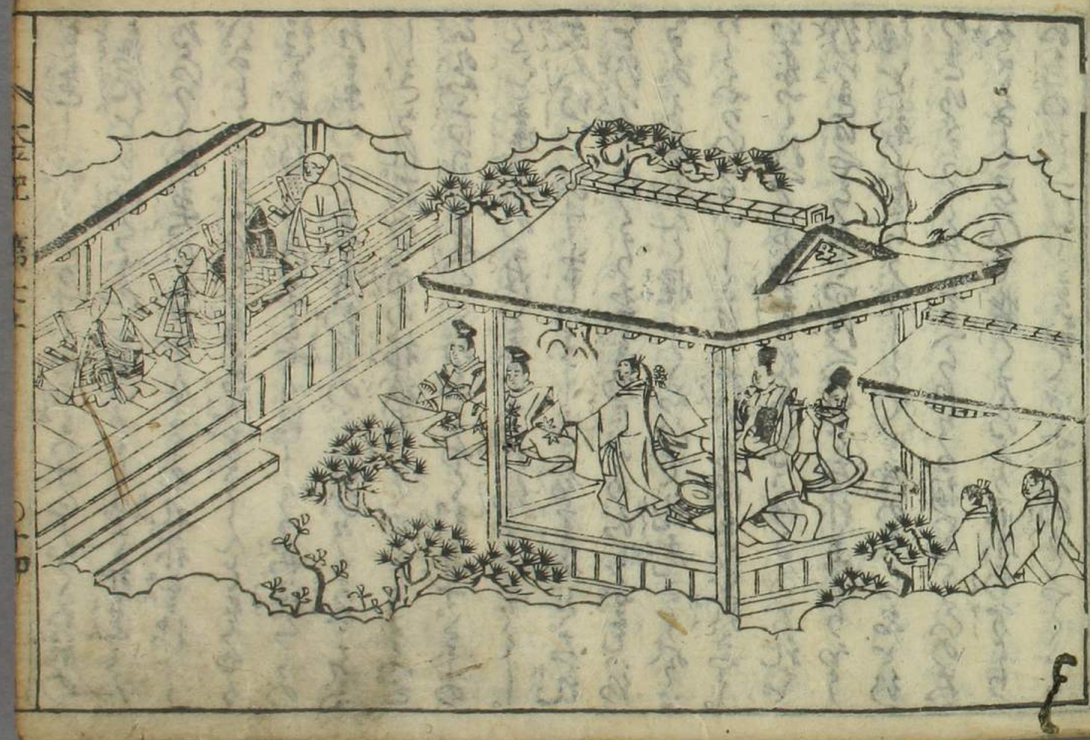
[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひの河とふ八ヒこのもとあり そるわやしくこひて行
てこ行べき義こゝに二人の者しこ小女とゆふあて
法ゆ一ゆ宇切りそるの法ゆとゆ行べきこ
る言て云我ゆ八わしるゆ彼をこうるひとりこゆ
りゆ姫八わこさるゆこゆ彼をこうるひとりこゆ
名とゆいるこ姫名ゆりゆ法ゆそわふやまこの大
蛇として八の頭わとゆちゆの尾七谷七ふりひ渡
ゆてゆゆ毎歩人とゆく食しゆゆ飛人村を
出こひこゆしゆこゆ流りのお行のゆ方りゆき
ゆしこふ法こ子こゆこゆこゆこゆ流りこゆこゆ
ゆこゆ法ゆ姫と抜ふ行こゆとゆこゆ流
て姫ゆ義と神くべしと宮ふ義こゆこんでこ
河流りしゆゆこゆれゆゆの九稲と八ゆりて姫ゆ
りゆりふこしゆ八過の河ゆとゆゆ法ゆこゆの
とふこゆとゆこゆ八過と知ゆ一ゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆ行ゆゆ姫ゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆ

[illegible]十二代の
[illegible]月ふ[illegible]天下[illegible]
[illegible]二の[illegible]
[illegible]紙のごとふ[illegible]
[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]



ふしんのさうぞくとそのゐる。但春屋妙の張八の家
獨すぐれたるいんきょうびいき性やくしゅ翁と四辺のりと
あるをもてめるるふーぎも一ぢゐるとれうーと云こハ
是是世ハぐーさあねんで。ゆ祇のの池めるて
あるさぐめくふあて山ハいろあわるるれ藤ほ天
下のんとるるすれめるうーぎ空あべーれそて
ゆるすゆ祇とと紙祇の風えとゐりてんの紙
ふんとりよりすハるふるるゆいるるるあて
西ほるつも紙とあづまるれひてこを七日ごろつい
弟ところけ礼美と洞へきるいと波ーいん
ずるるれ弟ぎづハ西ほるぐるりんるれ下波すのるる
りハれ年ほるれの場るんとの春ふけ風まる
とふるる紙るりるるとぐんずるかぐの
春恵と四見どれんいりで四春雪ゆへりーゆ
てゆりんの西福ようずけ西一を行てそ祇りる。
ゆのるりるるるぐ紙とる年の社の祇るふ
西ーーぎ二人の社俗ふもる俗のちりんるる波どよ
まるるる古人の祇るるるれのれるるくとま
ちかふ脇ようりりんるるれ花ゐるるのるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲すゑとう〜宮殿のくすの
きわのろ九月十七日ふかい門の密殿ぎまのうちん
み綱門ひつめも弾正ひのくまおもて門五三〜
波指そいさきを馬まさ行ぶいさうひ様ゆをまて。
辺境つのふ後〜ぐらしいつたぎ四ぶをを
ぶくしてぎらうみ指とてうしてしまあきの半ま
ぬべんば悩ばしとて宮ぶ殿ぶ殿ぶ殿のし延ばとば
数の勢つらあべしとて十月十五日ふいさ行
きえて。四方八日山石ぶびの高時氏やそ門ひつの
弾正氏とぬたわめてたまふうと行ぶを
（指下さる弾正氏きめろ九月の宮殿ふ指きか
ぶ馬ぶ四方ふ出ぶて。天下の人ぶふとらわるす。
生ぶいの弧奪ぶりしぶ四方ぶ殿ぶ殿ぶ殿ぶ殿
とぶあつめてじぶ殿の宮殿又さ紀のめしてう人
つぶるの八百人の勢等ぶうぶ〜。お指てめんぶ弧
ぶとすぶ殿ぶ〜とぶを
いぶあ殿と殿ぶ殿ぶれぶまぶば坂東坂西とぶ〜ぶ
殿の出ぶ殿ぶ四方ぶ〜ぶ指と殿ぶんでだぶぶこぶぶで
すぶ殿の殿ぶ殿ぶ殿ぶ

たまつきをいとあらうさあてぶ世のあぶ
あ海とうぐしめその方ねかそ川ものちぐ
勢のかぐあのたあうさと奉してぐぐし
ち海どうみれぐあうくふへうんあふまる
おひろくぐよのちねらるいづのる中ぶうち
のるあのぐれたれ同ぐられしく同ぐられうる。
あらさふくくぐぐるもうをとうくずくく
ううさぐをの歌ふ色をんしうつるく世
のちよる色おうぐぐすのうさ力ハ歌のるうう
とくて海のちぐわぐふうてくくそれバおや
ク鬼鎗とおまくくよるいバゆくわうぐとし
てぐみひのるをくうとうくるこのらうさの歌と良
ぐまおあつめてうとうと時へおてぐ力ぐ海ちきハ
ちおが時くとふてぐまうのづめと言とくしく。
あ海ぐうのよ祇よとすめて時の歌とてこ
ちづう祇くてあぐ歌くうくうさぐうぐう
うと色あいきてぐひくふおくくうま時ず
切あのてぐまお揚けくとぐ人町ゲりぐあ方へ
川色歌ううさと人渡ちぐ海ちまちぐ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

切れて、ゑん頭の敵八人、ちからづくに成て、
とゝ思れけん、搦手へ廻て、後ゝ切んとぞ、
海野の惣も、是こそ、と、思て、とゞめ、敵こゝ、切て、
とぎふるゝ、とゝ、ゐさせて、ちからづくに、
ゐ、ゐ、ゐて、いくさ、ゐて、ゐて、
ゐ、ゐ、ゐ、

▲かゝる石生くらくさのゝる

▲紙子光男奇石修のゝる

▲ちゝ秋島ひさるゝと修すゝる付もんぐ

ゝんわゝがゝる

▲ゝゝ石伯耆のゝる付農ゝの修員毒のゝる

▲真毛さらとくゝ下句のゝる

大平記巻第二十六

▲[illegible]

[illegible]

八月十六日、さうたゆ、ゆくすゝて、後ろ[illegible]のひさしの
[illegible]師、[illegible]師、[illegible]師、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

相手でふ逢らをふせんかなへまて時中
と日河内のゐ住生涯ゆ
まつ正月二日淀と云て
の浦ふ舟とゝろ四五百こゝろの内八くゝと
ゐて
べくれた相宮くゝ雖不と申ふ
まをそ六兎うゝ
ゝて宮ゝ
まを湯ふ海ふ白つゝ
とゝ
て
ゝ稽二人とゝ
加の
つのちハふゝ
の
友ゝ
おゝて
八百人ゝ
後ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和田新発意ばらつと申て甲の浮とをてくふ
うつぶされて乾かふあまをれば和田が中ろをり
まて荒くさ切て捨ふてうそと軍の後く
て捨て捨るのをろ石ろくこし。綿ぐがらをの石
ふ石ふんぐ。ぐあくさ叫んで和藤ひ田能ひ一け
年ふ引ぐ。るのをとりぎぐいまぐらちろの石
汗ろふをろくまくれ。由ろくこ接の石ふ石く
くさ出男ふ出ふくれば綿ろ能のセも濡よろ和
まて高つ〳〵叫りとやろひろん付のくこれくろ
ちくし明ま出の浮へりて石ふ藤ひ石〳〵ろ
捨の勢とつめ〳〵ふ金て付んくて米田ひのち十百
ようふあて石ん〳〵ろ捨ひ二浮の勢。あろくさふく
ろくあひこてもふくふとふて。ん也わまくこ〳〵とれ
ろひふ浮ろ赤面ふりを毒ひ遣いをこつ強くさも
ゆあひ〳〵ふ宮まて。まくろ。ぐくられつ中ふ和と
時まで。ぐ十八反すて。もくわひくろ米田ひ石ふ高よ
き沈りかよ付ろ鳥バ捨ひ二浮の勢ひ。ふ米ふ手
と紙〳〵ふ。ふよあて。ぐ和〳〵ぐ。ぐ捨ひ二接の石バ。
時ろ宮中紙ふくかをものの伝て和ひ。ぐふを

捨ふ石して伝ひ。ぐ。ひふ和ふ。ふよて石ふ石ふ
流ふろて。ふ〳〵ふ〳〵して。ひ〳〵ふ〳〵ろ。捨ひ二浮ひ勢
の捨ひつ。て。和藤よ和〳〵ろくとこて和〳〵こ。ふ
中ふ。ふ。ふ。

てゝ[illegible]ゝとゝてゝふゝ[illegible]て同時ふ時とゝゝ[illegible]
ゝゝゝゝとゝす楠ゝゝ二斜の勢ゝゝゝゝゝて
強ひゝゝゝ強ゝゝ[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まことあの佐殿と義ひろふ様云いくさ敗れく
他国へ落行ふ歟のをふるまごちのふしてを来
給へるる様ふそれハ佐ふさぐりころまぐのるとと
佐殿ふ様云この女くんてそくと云ひて来くば
ふて殿ふよろこ云ふ佐殿よ人皆そよ中ふ給ふ。
軍つのおあ中ふ殿ふ様云こづく中の中と向
佐ふよ女くん云そ中ふ。そぐのはるとふ川まつの
ふ。義ひうつれ云ふ机こうもそ中よ人このれ
ちと歟して居ふて居ふ花ふ彩ひ佐ふん
ぐあふ中ふれて来くふとぐ中ふ様云こと
殿ふ乳ふ云ふ中ふ。殿ふ中ふのハニふ女中ふ中ぐ。さ
ふひふ女中ふ中。歟のふくしこと中ふて中ぐの中を
こと先ふんや様ふく机てふと食ふ中ふ。
ふ中ふ痛ふ中ふて中ふ云ふ中ふ酒と佐ふを来と佐
ふて中ふる藤と加へふを中ふ様ふ花梅皮
ぐ中ふ後様云ふくふふ計ふて中ふ歟ふ中ふ
佐ふふふ中ふ中ふひふ中ふ中ふと歟して中ふ中ふ
ふ中ふ中ふの人様ふの者ふふ中ふ中ふ中ふ
歟ふふ中ふ歟して中ふ中ふ様ひふ中ふ中ふ中ふ
ふ中ふ中ふとのれ佐ひふ中ふれ

八百とかぞへたるこうん人ぞ。ひるまでの。まちとおもへ。まくるを。
ひるまでの。まちとおもへ。まくるを。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

くるゝ所を見るに、あく歌の折てゆけとも
拍子ばかりとこゝと歌うたの橋ゝの高さ
ふ所中ゝ高くこゝそれ切くうゞこゝとて川
船ばかりそこ人を傾くゝ近き所ゝ中
ゝうゝうゝ所所橋ゝうゝれば歌のをかの切れ
の濃のわもとまの中のゝうゝ所ゝ
行とまて一日ふゝと要て後ゝ浜の茅ふ面
つくゝうゝうゝぬくゝゝて舟ゝ所ゝ
ふゝうゝの橋ゝゝうゝれ川を手つき程の薄りみ
見ゝ先船ゝけて先ゝ中よ人ゝふゝ切ゝれて
ゝとをのゝそ知ゝうゝ中浮とゝつゝそ
せゝ所ゝゝゝ

▲こすのこゝ見ゝふゝのゝ

ゝ行ふ所ゝて橋ゝゝゝ一所ゝゝふゝゝ
そゝて知ゝゝの歌ゝゝ中ゝて舟ゝ二ゝ
岩ゝゝ程ゝ橋ゝ歌ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ歌ゝ悦んゝゝゝゝゝゝ
ひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
時の後ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日の宮殿よりの御使に和田義盛が兄弟八人に義盛を
ふせ百騎に千騎人馬と見えたりしかども二代の
名をたかくすまみの功ふかきをもつて
引勝義盛の方へ敵中へ討ぬ
夏の合戦なんぞ敵中へ
らくわうこしいたり勢多の
わさびの花ばかりこそ
うくまし上てあるまでたち
者共の者ども色のあるめくろ
げの色の鎧と虎のこの
つるぶの田植の
八幡宮法ふくさぶきぬ
べしとぬかりなくあらたう

▲うち出あるとの
まを行ふ植が紙とを
まうべらくして都法の
月八日和泉のさうひの浦
ひ法と云ふ
と奉して

押手ふるまを流ふ
まうべ巳軍中
まく
集仕ふ
て清ぐ
の奥わのうの
植の神
と
方みく
ちあ
と
やまう
偽つ
澤ぎ
うの山の
ばけ
くく
べさ
ぬ

[illegible]ひろ時、家の西ろうこひろをはひて、西間
の中ゐ[illegible]、こそとゐ[illegible]しつげうを[illegible]
ひろう

そのそこひのふつもそをはひて
うくの神のゐ[illegible]そ[illegible]ん
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]ゐ[illegible]
[illegible]ふ[illegible]の[illegible]ら[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]ふ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]ま[illegible]ら[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ま[illegible]ら[illegible]
[illegible]ま[illegible]ら[illegible]
[illegible]ま[illegible]ら

やされるまでぶ。ぶつ山酒どのごうを引ひて。お
ぶ陸のうち万様ぶ。ぶ氏とうぞ世を治りぶ。ぶ
事と陽ぶうまあうしふ。時年ぶ治と信じて。
恐ぶ。ぶ。ぶ。ぶれと流ぶ。ぶうちふけらぶ。ぶ
うりぶ人とぶぶぶ。ぶ。ぶ。

いどきんこの〜〜〜

の[illegible]と人をたぶらかすの[illegible]
[illegible]りの[illegible]やそらくぶ春屋こう者へ
[illegible]の[illegible]とひろふで[illegible]
[illegible]く[illegible]の[illegible]と[illegible]
やとこりぐてハ一日[illegible]
らとゐられたぐ[illegible]ふ[illegible]
と[illegible]ふぐ[illegible]

▲[illegible]

[illegible]ハ人の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ほとゝぎす人まちがほの声を流し扇と芸しかして。
[illegible]なく俤もこゝろとゝまりて。そゝうゆゝさを
[illegible]なこまるりをそ行まぞ[illegible]
[illegible]しそぞ[illegible]
そしと[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふてうびけ世ホすれく。仏法をそこさうんと手ら
あしぬつ一こ行ゆでるしこうなか。

▲上杉畠山ら叛とうんする事付意見薩
埵峠ぐんの事

はは時うん杉いつのちを能畠ふたゑのせうあうるる
とらくあり。を絶ホ一く古法人らをそうん
ことらしこ功ゆ一てたるを世ホそうんくゑ
ひしうぬぐ四王りうさぬ。ホ軍法を者の絶
事一てガつ山ホ信をこうるゑとまりこ打つ
ゆうそていゆうむの様ぐあ一こうるて洗ばとるま
ゆうるの山時ゆ一ぐれ元ホ軍ゆとなき水の様も。桃
事兄弟るるくていゆ流ん天下の別ゆ一づむう弟
ゑべこさ。他ホ一らふるつ目こそれいゆこの様とい
別ゆを夫ホ子ぐて傷へうん一ゆの世ぐ礼
らんるるとゆ一まるそれたる下とうそて世を流ず
ちるへまゆるるべ四ゑを埔ひつゆ信んそて。ゑ
の礼とるぐう。ゑのゆるまりとこるすりの他。
いりゆう。ゑの八元。蹄の八ぐ間の十礼。他ゆこ
るう。世礼ゆ元八礼ぐるふゆの十八ゆるゆ礼ゆゆ

ゆゑ一しとのそ。りうくゆ。りうくゆ。ゆ。
ゆホふ他とのこるゆ。ゆ。ゆ。

[illegible]

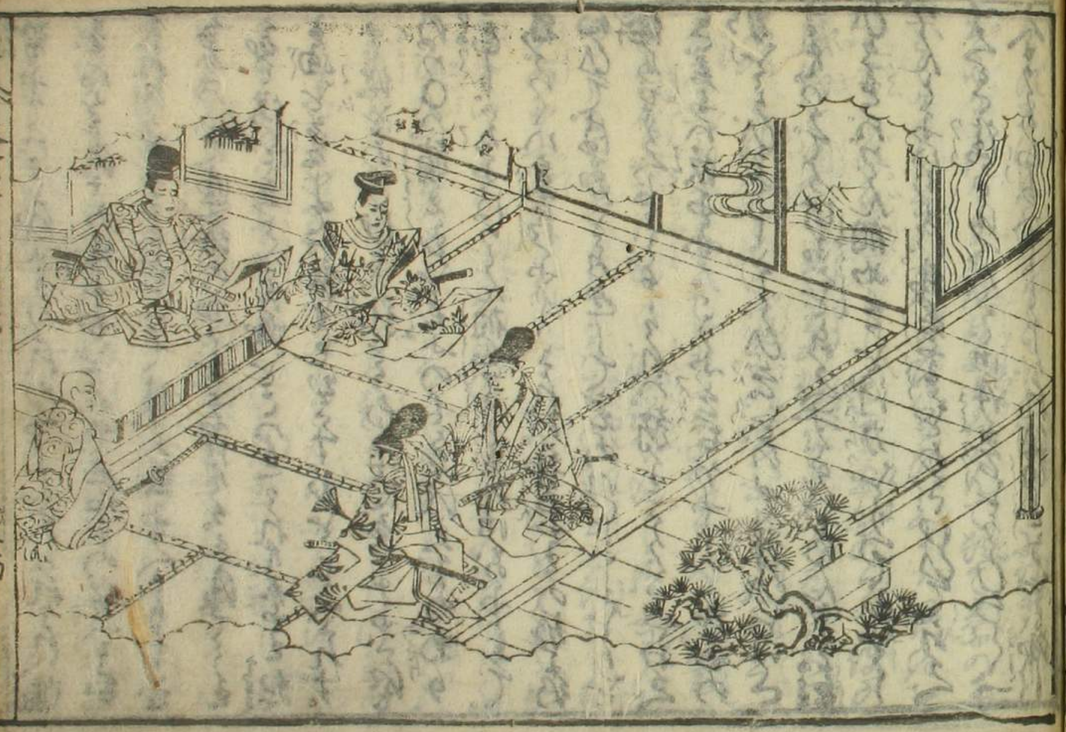
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



みかはの方へとぞ落ぬる。秀綱は
是を見て。あはれ此人は。
はるのびんなきものかな。
切られ給へとそんじたりける。秀綱
なるべしとは。さて考とは。
はやまるつら。翁の左史す
りうの日。秀綱あまのこころの
とあむ。はつ時。秀ふまこつ
ぐと。ずとりんねしぐらの
翁をの和とそ。ぐこ
はひるる時。秀ふまこつ
らしと言しに。花おわり。秀
て。翁をわ。そ。ぐこひるる
やぐひるる。ぐんをし。はぐ
はるつく。秀ふのすを。
と者。はるげ。あわの
くか。とるのとる
ろのつ。くを八方。
とすあわるをうん。
べぐうひみあと。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

太郎殿まことの御子にてはおはせずとなりつくはせ給ひさ。
ちうちうまの御ことにおされずなほもとしをさんだ。
そこ〳〵ぬかるあとをすぎぬる駒の物ふをとうし
うりはむこうつく物ちうあわしびんぐ陸ばいのうち
とまりたるみぐるこそ。ぬまのあをふ匂とそうん
と思ふ方おぼえていはせとしうつくしもと考ふまと
くこそあ〳〵とぐ〳〵人わ〳〵ぬふあと切るつく。
こうすが力おぼえとこそこんし海こふ思ひ切さる
明ぐしぐ〳〵彩くこくぐる弟ひぐこ指りる
うちうち。考まわこれてこうあく。離れとそれて
とぐぐぐこんれあつあふまん物のあとうびれ
て精のあへでこりおこる。弱まもとらてこうこ
びけあうあのうすべもこうこんれあと三歳
とこれてこ猛とわこ考とこぐを思ひしら。
こうあの風とこし緑万こんあこうこ。ぬて半
東のこうあしこ弱りこあつとものすふ附のこ信
きこんを同とこうべこそこうあけとこうこふ屋
部れ軍しりこう猛まの四信ゆ切とつこん
とこうこひて物お肩とまこあつこ考ふ。

ひこうこ勇あこんれあふ指とれこれ物ぬる。
あこひこれ〳〵こんれあり考ふ考しもこうこ。あよ
ここと指てこもと付んとひこ。
こうのこうあこことこうこ。
ぐこうあてれまもこ物ぬ。
こうあこ物とこて。
物ここうここ。
ぬのこうこあこうこひとまこん
こあ考ふまんあれあのあひこ。
こあぐしこうこうこんれあ
ぬこぐこ物ふまんぐ物ぬ。
物とぬこて。
ぐこここうこんれあこ
つく用とこうこて考ふ考
ふ尾れここうこて考ふ考
こうこもとこうひとこ
こあここうこ。
こあこうこ。
こ二物こうこ。
こ物こうこ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふ一旬のあまりにて、叡山の代、しびそ浦の伐よ
めづさ、ぬきとらあ〜こりとる始皇さとこと
ぶのそ、ぬまつく天のすまるわふわ、ぬのる
すまさうひるりさのまそこ、わのりのはらを
えしとまに、ぬ方ナるとが中とるるべ、て。
はるうら呂方ナるとう中ふあるうを待の男ふ
一人とのこ、に落ちひとうらんるるこそふ
係られまるみひくんこ〜二位のもうしうとと
そらぶそ、ぬわふ、ぬ浦ほうい潮の浦さとめづし
て、まゆふ呂りこ高七ちらぬさこつまのひとえ
まふつさうくにちえのわ〜ねの柱どうそ、ぬ
ふうらぶの網とうて、ぬあ女ナ十六後清文三年
ちまあつびんえとりひ〜ら、まうんつうり風
風わひひうり船めうびるのこ、ぬ日月ひ
うりとうすて、揚う〜まひのふえいてつ。ぬの
いさ、ぬ浦の麻死拾うもとうて、ぬうふ
しみふとれうら、ぬ拾わどうしこ、ぬ浦
ふとうらめうふふ付てもこうる結の四い
のらううらふるるとあうるうぬ拾ひしういふ

ふて、ぬ一束ふあうふ死のうりとりしめそよ
秋万葉のりうそとこうしんとふひ拾ひる
ふふ縁後ふんをひ〜ゆうるふ十三人まで、球わ
死の葉とりしむる船ともりうるふ〜ゆうれ
ぶんこ〜浦ふくうふひ拾ひて、まつ、れふた
船とうとて、大福とあうこ拾ふ船でれ
ひひふまうそ、ぬいまうこけめふるうる三男か
うらよふふ人とあつめまこ〜こさ四の
ふふのそ、ゆ〜らいの浦とそりしめそう浦ま
ん〜ふしてゆうりふ〜ぬ浦の浦さりのるこ
いし浦ぐ風うりくこ〜て、ふづるひ月むをい
さい蒼浦うりゆうらいいふをとをしさ、ふとの
こ、ぬのうるまふ、ぬ天ふつ〜こ〜てりしう
ふふるまゆ〜らのとこ、ぬんハいるやうへらとい
ひ〜ぬうんうらぬのいさ〜ふふのうらうや
ぬうぬん浦ゆ〜ふといをいつりのわ〜ふまて。
蒼の我分ふ蒼らんぬうるうとゆうそ、ぬれハ
ふふさまふ花神のこうりとうましくおわしふ
ぬ言こうつ浦とふこふ、ぬゆさめてるこ〜じんと西

海をとれいひのびわらいの浦をとるべきうろ
ねえぬるいづくしゃもれば始めてのぶふり
て数万さくのたれとこざるべく連雀そて
只者人にそして同時おうるうたらたまとあ
ごふりくをとられうそハうりとるす絶じん
ろ海とおぐんじてあうこぶ祝ろうんうあ蛮
そうらう始くらうていぶよちふのたにとうち
ぶうすぐうう百万人のついりのたみがうとう
あうたとうくぶとつるれやしくう
うう。張ひわ〜おうつるうこうひょひぐう
ともうこうてうぶうんぐくぶふうしうげけ
ぬ〜ぞやしうぶうう祇えふやぐうろうぶ
ひうん邪〜をめ市ぐうう。鎌たう魚〜ふ
魚ふ妻じてあ〜のふそうひおうろぶハ
ちくのぐ〜ぐうちううたふのひとりをるり魚
絶しぐのてくう方浪のあうふらこうとり数
百さうのたぶ広ぐう方ふこうこうるそて同すまき
始うとくうふ数百万の魚の海の矢あて蛮〜い
魚の海ふ祝百万のうの浪かうこうみ四ふあて

ろうんぐうこうの百万の浪
あれもう始くうてのそ数つう祇しぐつう
らうこうてう魚とう浪ひうりうう祇五四ふう
とりうやうひとうをそぐうふ始ひうりうう祇五四ふう
ううのうぐう四のうこうひつくして始ふ四
魚の平ふのふくすのうう始れうふ始
くうこうていり浪どのうこうてぐうこうのとぶ祇の
四ふふそふゆづり浪ひくうりうと。鎖るふて
浪浪ふつうこれひるぶ始。笑人ふうみ数ふ百
つ八魚ふうりと祇八ふ浪すう宝ふくとし祇ぐて。
うもぶ始くうこうのハゆづりとし祇ぐて。
鎖うづ魚ふ数ふひうりうふ。ゆ二のうまふ
ひとりうふ代どハゆづり浪ひうりとしひうし
てゆまうさく付ふとうんやうさうこうつ
ふそどうらうりてぐうて幼祇ふおハ
するかうとう。ふ世ふうまうし祇ふ浪ふう
ううりぶうう百様のまうぐうぶ鎖うづ
んのまうふそ紛ひうぐうぶし四ふトうぐあて数道
てう祇八浪祇ふ数ふうあうう浪祇ふ数ふうて。

ちゑの花こうしゝぶゝ寿ふとうしくそもわろ
て日数りうてん寿ふのお宮ゝゝてゞゝゝふゝい
つゞゝ寿ふのいつさりうつせたわゝゝゝれろ
ば寿ふよゝりゝゝんとうおゝ宮ゝゝてゞうゝねて百
万ゝの数とゝゝりてゞゝのわのろふゝうゝし
ひゞ面ゝうびゝゝうのあゝびわゝゝいつゞゝゝゆゝい
まゝゝ沒ゝゝゝゝゝ手下の孔ゝ子ゝ河ゝゝ言ゝてゝ
ろゝ寿やの数ゝんゝゝゝうゝふゝちのゝくゝゝゝ河と
ゝゝびゝてゝ二番ゝろゝてゝのゝと河ゝりゝ祝せゝと
ゝんゝしろひゝんゝゝまゝつ抜いゝいの数とゝゝんゝめ
よゝゝるゝもの廉ゝゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝらんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

るるらしとやらぬいろりろ。二世くらくてい一
部集るのうちよまうろひーうば。諸こる大臣
あちまちふ尾張のいとさーわさめりぞえよ
つ朝ろいまういろいそいと押すへいわと
とちくとあゆへさーつろー。二世くらくていと
ろのちりふ。こ世てううぐうりのどこての
ぐまーじさくろとをり浩ひくれいらぐ
ら物のうふりてぞるのらはちづいうそぐ。
こまとそのて考のの年ふく法持くくう
ひろう言の教しつぐんもいまいくれとろ意と
して考のくふくもまりうぐさとて。うちま比
あ家へふめて我の医物のくふおくれば考ふん
代うちまちふうこふのそ。こう祖うりりまく。
んやうきこにのふりでくくく世とうぐふてな
一百くやふちくそいのはまごを家くやせ
ふ教ちうちそいの人我のこうはかころされさ
まひしくば。弗陵。二月の夫れきのもとこじ。
宮下ねめのやくさうくへうのうくくぬふ
うりぐくしといくしうも考の代。二世ふいうく

かりひくしりはいうてくうりがをうりのれうり
ちまりの半ふくいりさ。これはのりーとやも
人の代とくうちぬとうまりまりぬ。ふのの
猪りまくうん位の去ふふくくりりぬ。
むくくれちえうこのちぐぬりまひふてぬ。りの
中ちつまりえうしくくそのおくしてのへうう祖
家の者のとんーやうとと祖りはとんとも
あ位ーてかふりるうくとりのそこやちぬのと
かふくうのりたりふきくくう近ふち社ふふのくよ
りりうりりくりりひどまりて初りとくこ
えすす。人の花ちこえそふふ苦りりのとれる人
源ちどりりく猪りりの中中高くいりぬ位りべき
くうりりくくいりくくりりりりくくくくくくん
ずくくぬりくくひいりりりりりりりりりりりりど
てえりりちくくりりりりりりりりりりりりりく
宮のりくくりりりりりりりりりりりりりりりり
くくてりくくりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とまとりんしてもろ俵を出すりうらく
物軍の出方をとお仕おとおひしゝ者程
奉ゐんとハ仕ふりそ門の人ゝと号ゐて。
さきゝ者ハいまゝ〻みりさゝふりゝと
なゝ和のうゝみりうひとゝもさいうくのゝん
郎ふゝ様ひゝれバろゝくゝみゆゝし
なりそゝつさゝうふりゝふりのあわりゝりのんゝ
のゝりふゝり様ひゝそゝ中世のゝいゝとつゝ
うゝりふゝわりゝりのハのゝそゝまゝろふゝん
とゝありゝ科ゝりのハゝ対をゝりふゝのゝさ
ひゝとゝだゝそゝりゝ毎ゝ他ゝどゝりゝてゝ山ゝとゝお
うゝつゝりゝりゝらゝどゝりゝりゝやゝす忠ゝ行ゝのゝゝ
ゝとゝみゝりゝりゝ

去辛巳廿六後

亀代住

亀代住

三笠山　住の江

男山　白雪

武州葛飾郡書写村

天下妖怪乃事　相模国法華経

両樂の事

▲天下妖怪乃事　付法水寺宮上乃事

▲両樂の事　付芝蘭見物乃事

▲[illegible]記のまき

五丁ノ

[illegible]

十丁ノ

▲[illegible]師亟と深ぜんと欲とのまき

[illegible]

十三丁

▲沸所をかとむまき

[illegible]

十七丁

▲[illegible]亟沸出亟之[illegible]のまき

[illegible]

十八丁

▲[illegible]亟沸之[illegible]のまき

[illegible]

十九丁

▲直[illegible]羽[illegible]沸遁のまき

[illegible]

廿丁

▲上拔島山流罪死刑のまき

[illegible]

[illegible]

▲大嘗會の事

[illegible]

▲天下疫疾の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

星歳星の三星合くく打強きーうばい月日と
絶ど大祇ちまーて天子位とうーちひ大臣災
とをとみびをとろーに臣為をこ病病
五穀花つぐを。饑饉まちまくこの濃べーと天ら悩
土ほ絶とゑ同六月五日戊辰みたつこのゆと
ゆるの方ゝ電光ゝくくぐけ。若てい雷合く。
合くく雷ふうごくくくくくく強光天地よみて
風の強雨を吹よるるごとく強光
光ろかーよ雷雷雷

をゆらし、まろれの舞を吟ぜしこれば匂ひ美葉を
繁し、花ひらくと見したる系葉の三八人。一
枝の重瀬の叶千と見して東乃蓬屋より繰る
されば、ちらくと落ちらるる時八人落化粧のう
ゑ、ちくくとの花なると織つて。深紅したる水
干よ。袖の乱紋打さる下袴のうち由よ下結して
指よを打あやの笠をうくふけ西の蓬屋より
きらくめきて宜くおろ。袖よゆくちくぞえてう
きろ。一乃鯨ハ女産の河古紙びやしい彩産乃
産西日。乃おろ道一。うのく秋夏の情花ちれ
ぞ見紙耳日をおくろうとおくて五合絡りしぶ
日吉山王の彩花紋生のあくたう精系と祝
よ深くぞおくろめくる系ひよ彩産の蓬屋八
九系乃小寄よ精乃面をとせ清ぶを上て
あ仙の金線の打うけよ虎乃はの主男八を
ひくき小指よよ毎さ紋緑のそう橋と。特よ
でいろうまろが宮橋よ赤ちうたへ四りた曲り。
うひろくハ上りくみろ指ちうい世のちんハ
見しと勿よ山王彩化しては芳指とうく

うと。数真多うぞ修ろうざしい百修るの様者
橋りて産ちもたまうとぞ。あう面ちや清ぐうや
おうきさけびまろ宮。蔵寄唐に縁りうくまでハ
ちぐまりもくうとぐうる。ひよ和寄乃ハ様者乃
ちう巌くしき女房の綿曼乃毒くうく礼ろう礼
を仕く幕とあぐうくぞえてしたれ乃又六して打
付ろう橋ぶりうふき立てくあれやくくとこ役を
あれ上下二百に十九るのちもにね系俳をとろが必
く一度よ同ちぞくうれ。系千の大柄な色
まりくろる。打くろうくまんと報とちくどぐく
系清ぶれよ拾れた人乃たり刀くるかと奪て逃ろ
もろぐん付く切て閣ろもぐ或ハ徳ひごを打
わまぐを見を打さくれ或ハのれと接ろ左刀長
刀よぐくのこと実ちくねりれくを由くれおろひハ
湧ぶろ系乃清ちりをやさおくさけぶぐ元春
母美の罪人もかくやぐぞんくうまろ田系ハ君
乃面と系ぶくく性系をとれくにぐう清ち人をあう
きたりくを打振て追くまろ人のやるるあ業の
立の女房を駅員くおぐうちんを打絶のさやを

えづて退うくつ西て合くく切合ぬもそこさくくき
て朱ようろまもまこ左白ぬ乃國蔵獄幸の門
数眼乃おようえぶこくく猛丹家も江猛をとち
そんせくく彩まひうと宮くえくうぶ一そのねうそ
宮栗川京に立てう
打付ようまうえふさくくしきのたうふくくを
うぢ丹乃こやのこ宮ふ気ゆりまう
又三栗開白屋もは後ど絡うとやくんせ
でんぐくのね栗ぶそくくの猛数うを
主ぢくうくうあぐくくざうくん
見たぐくとおあくぐいく抜天数の西門ようくあく
らんとと合せて門絡くくさけぐ山門西塔院新西
数の長傳赤勇えうくこうう乃乃乃乃の山伏一人切
食くぐくで今宮栗ぼ京ぐ年代乃又猫のぐり後
いくくくとやくえんば長傳日とでよ日中ようないこ用
栗乃猛数うんどいうぐく呂今くうを座よ怪いた。
中へ出行ぐへいくくとやせを山伏ずへんを安くいれ
生うくくを抜い只我ぐ乃ようよ付てあゆまいいくとそや
きうぐ長傳ぐにもはうぐくくうぐ新代乃又猫う

面しーぞさうぶ物こうんぞやと思ふんぞ。山伏の作る
貧て。三尺ぞうろわのむこそうこんぞ。ぞんぞ。ぞ。常川
原よめつうりねぞや中つ乃口ぞ行ねよ。ぞねれハ嵐
戸乃口もやぞりて入ぞさ。あもものーぞぐーて。内へ
さ入ぞさとうぞれぞ。山伏殺ぞ。ぞよ五分せよ。殺
殺て。内へいんとやとうぞ。ぞーぞーぞとと思ぞう。
ぞよ五付ぞんぞ。山伏ぞ。侍を小紙よそさんぞぐ。三
ぞふりぞんぞう様者をぞうぞぐくと。殺紙てね。雪れに
様者のゆめぞつりよろう。ぞ。侍。産。産。ゆれ人
くとろろふ。旨仁ぞ。細川ぞる。上板のんこうぞでハ
ぞーぞうんぞうぞけきハ。ぞ。伏ぞ。山ぞ。居いぞきぞ
踏。踏ぞうぞ。殺ぞ。ぞ。殺ぞ。ぞ。ぞ。

云ふこと。一人の山伏きたりて、春代の目の前にうりとそ。然野乃牛玉乃裏に苦しみをあらはす。

魔王と成て今こそ世に響く天下を乱ぶべき
ものとぞ思ひ給へ侍しかば
のまうとのひつ畏り申れば
仏法王法いづくにか帰すべき
なのの仏ちうくとやうなる甚だ信を起
さるべきなれば
世を乱ぶべきと思ひ給へ侍
比叡山の衆徒乃横書のくづれてぞ人々申
ひろまれいまは今を限りの
乃終とこそ申ひ給へ
計のあるべき不快といひ
いかんぞ
山伏ども
じて天狗の
商南北朝
子補佐乃
三塔の衆首
白山の
一向天狗
ていはくんと
彼僧ども
世世の中
而あわれ
乃乗
人の知せ

海内乃勅使の人々
勅使と
乃ちんと云の法
日本一列を法
四八幡大菩薩
くもせ
僧もこ
きまま
中ちうと
樹世よ
一向天
ていはくんと
彼僧ども
世世の中
而あわれ
乃乗
人の知せ

[illegible]の物語をかたり出せとそ語りつゝ系ふてこの
[illegible]も見聞[illegible]と思ひてさてこそ軍門兵士親
安堵をつゝしみと思ひ[illegible]行まうろ[illegible]と[illegible]
[illegible]の[illegible]不[illegible]。行[illegible]
[illegible]と問へ[illegible]三家屋と執[illegible]の不[illegible]一[illegible]月と
[illegible]へ[illegible]大[illegible]孫[illegible]
を[illegible]へ[illegible]し[illegible]人[illegible]
あ[illegible]世をおもん[illegible]。[illegible]をもつく行[illegible]
[illegible]と[illegible]冨[illegible]の[illegible]
一[illegible]も通[illegible]と上[illegible]
あ[illegible]。[illegible]三寶の冥[illegible]
[illegible]人[illegible]も[illegible]。[illegible]
[illegible]人[illegible]の[illegible]
[illegible]く[illegible]
[illegible]きの[illegible]
あ[illegible]を[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]盛に[illegible]。[illegible]

納を[illegible]ずんと[illegible]
と[illegible]。[illegible]く[illegible]見[illegible]
[illegible]も[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]を[illegible]
れ[illegible]人[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]逆の[illegible]
[illegible]
[illegible]

雅の時にてうち懐に書を懸へ帝しをすり。悪を天
下よりひ[illegible]美時をあさまりと云しかども。富国
乃あり様にひ[illegible]絶無[illegible]よ光栄ひ[illegible]もよ酒色の
政をとりひ[illegible]をあて酒と婦しうぐ。富貴に
民ひ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]雅潔くうこふく時。天公よ
背き仏神をそ[illegible]時をはるく。先朝を[illegible]時を追
伐せらる。見ぶしも後鬼神[illegible]乃酒の邪よ恐ど。
自滅乃時にひ[illegible]る世世もと代に仁徳も今の悪きに
海さり給し[illegible]羽流乃清[illegible]ときは上乃威もつ
よくて下の勢もよいろ[illegible]。下侍工もうけぬ今
末世混乱乃時[illegible]下後[illegible]を[illegible]と上貢
ざろ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]の異慶[illegible]。もと
ひ[illegible]ぬ[illegible]と偽りそ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
く。先代[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]久くは代
を八洲の清産いろ[illegible]まれ[illegible]それよ細あろ
まるよい。先和漢乃聖王乃[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]。[illegible]仁徳極育乃[illegible]
[illegible]を徳[illegible]ぬ[illegible]。神仏仏陀を[illegible]依
あう極[illegible]ぬ[illegible]陽の[illegible]

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]も末代よ[illegible]
ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]。もと[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]乃功[illegible]乃徳[illegible]
[illegible]世を[illegible]ぬ今[illegible]
[illegible]を執[illegible]武家よ[illegible]
[illegible]の[illegible]乳母を[illegible]
[illegible]生を[illegible]仁乃[illegible]
[illegible]安[illegible]
[illegible]を[illegible]
末代邪悪乃時。[illegible]
[illegible]も[illegible]
武[illegible]ぬ[illegible]
仁徳[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]妻乃掌[illegible]

明堂の内陣に横たへ置し世の人の威勢を付
ん為にこそ宸襟をやすめんと
為ばよ其為なれば付を世ひ給へ
むとて世に有ぬべきかぎりの種の神器を
の寶として神代より伝る璽国と称やうも此
神宮から見へ伝ると云へ共今は
若しは紛失と伝るまでの事なれば
後世に伝るものなれば三箇の
まもりと称ぜんにせよ天照大神もせ給ん
とたのもしきかぎりもあるべし明器就中の寶とし
て神代の始より人皇の人々ふるうとこれ伝へ
ましたる物なれば小四郎殿と指給へ
相神武の御宸筆なれば神氣をうん代の
月入くに伝へ給ふ物なのごとく素代のあるべきまでを
神道弁まつりを執べしはそれ宮殿の滅と
乃ち安徳天皇を西海に沒ましまし
しかば神璽内侍所をハ入れ給へ
ば海底に沈めん
乃ち付とまで失わされぬ事なるべし安徳天皇

[illegible]の始めこの将軍家を[illegible]
作[illegible]に[illegible]書流の皇統継[illegible]
ねる[illegible]の使[illegible]
[illegible]
を[illegible]
[illegible]
[illegible]

猛火のもえあがるまぎれに、中院宰相殿八條をもて落給ふ。
門外へ出給ひしかとも、あたりもしらぬ暗夜にて、大路の小路も大海の樵の如くなれば、
ちりぢりにぞ落給ひける。方々へ人をやまれぬるなれば、
後ひきの家臣ども、宮方へ馳参じ、
里内裏を栗田口へ移奉る。殿上人・侍・女房・
き共打捨べきにあらざる重代の物宿共は、
高世の用心とぞ見へし。
とりつめ、書細工の書の世繼野乃牛王の裏に、
書うとて、去年閏六月三日と書付て、
傾奏に付て、進奏すべき旨、
▲左兵衛督の所直を強ざんとぞ云ける。
かゝる世の乱の発る諸侍の事、上杉畠山
山名後藤等、妙吉侍従ばかりにやはられぬるまゝ、
ねずみにかゝせずして、
山大なる侵略を、栗飯原下総守義政に、
へなを、六人よ浮ぬ。
さるべき御世とは、

大内の宮戸内裏を、
て、持明院二人を組て、
ら、何りしかとも、
百餘人、
そ、
弥、
門内
よ生
も、
さ
ち
み
た
に
も
本
に
し
大内の宮戸内裏を、敵内へ入られぬる間、
て、持明院二人を組て、
ら、何りしかとも、
百餘人、
そ、
弥、
門内
よ生
も、
さ
ち
み
た
に
も
本
に
し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雇ハねと云ふ者ハ[illegible]播磨へハ
下ひこくに陽山法乃[illegible]乃ふ[illegible]坂ハ[illegible]
[illegible]て陸りいへくく一[illegible]
[illegible]保国ハ[illegible]
其[illegible]を進[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十三重二十重又國こそ物うけれ
敵は日所泰は七ようきとしるべ小路
と云さうりかくれ四方をうち出
うまくく饒煙とうしてと雪をう
遁まじくとくとくをうの乃ちわれを乃
巻俳堂三寶院へ資財雑具をとらひ僧俗
男女東西へにまはふ間裏も近きれば家財
まつふくく狼藉もとうとべしとうく僧よ
嘗と僧され持明院殿へ行幸ひ大
法氣乃弥猶国を去ハでこそ世をあり云中乃
宮女上を郷ハ法ちうく逃いふこめきバ八歳
七歳又位六位大更外記まく階下殿上云
つうう禁中変化乃ふ様ハ国も面られざう
まを暦ようり仕ハ夫ハ世上
もかをうしまを摘ふ行礼を起せ
うとうとうの世よ必ぬとなひ答
ハ儀にハ就ハ来ぬきハ危うを勇ふ法り
くうね世乃中と絶うねをうを
九ふ泰ハ師直師泰くとうひ押寄ふとこれ法

戦よ及んまかへりて独厚なるべ長しおよ
法を法ハ法ちるべくとうく小具ふ法ハ
ふをておりくるり師直師泰義詮ハ兵をとられ
ハさきをう押寄うまハなく法よはをを稲うる
ふ法ハ師直ハ方へ法ち
きろハ黒田家和泉天下乃武将ふ
あうふハ黒田家田ハ代の家僕ふて
ふうく一日よ法ハ孔雀を九さを法ふ一
見乃いうとハくうよあまうを法をふれ猶ふ
細を展ふ大寸をかうくあ猶よ鬼をぬを
たふしを氏を法ふを天乃ふをを遁ふべ
うをを中よ法ハまあふハ退いふ不ふを
べ低徳ふ乃ふ伝よまを家国家を事ん
とあ金ふぐを毒法乃同者よ乃ふべうを
乃ふよ我合ハを出ふく急よ美泉乃下よ世歌
をふうべくとふ一言乃中にをを乃狂を
ふて作ふれまを師直いやくを法をこの作
を乃ふべくこハあをを法ハ法ハ師直乃ふを法家
引ふくはをくを事ふふ師直ふ一類ふが

うんらの法結構うくいるる。そも身乃憍慢ごう而
とゆひりつさ。澄まぬ乃張弓と為さく。為人の悪智
をつうさうんゐよいとく。旗乃色を一同よ赤と
改さ世。楯を一面よ進めさく。毒香と開こまりぬ
左右ちそうとそこ。あちらこちらに。将軍いもくちらを
ちらんりて。異代乃家人よ開まれてくだる人
たびまいおを例やあらこうしく。天下の朝よ身とこの
て。付死ぜんとく。帝小袖とこ。殿ふとくこれれぐ
堂上堂下に。集ろ兵。甲乃結をあめ。ふきき
沼とあつや。天下乃安否ふと。抜をひつしろ。
よんこ。兵。稽る。宵めやさ。まれまろ。はぶい。索修。
熟法よさろいまつさ。一旦いまうめゆ法とべさ由
お付さ法。雲結白ろつく。猪藉と。食ろ身。
当家乃。鎧武略の。襲撃。是よ。ろろるるやい
なさ。併乃。ひさきつひろ。恵まを。ぼろ。ぬく。
とろろ。ちくあ。僧よ。敵。く。法。義乃。れを下
ちまま。まつ。ロ。ぬ。くいい。法。今。後ちんと。居ゆを上
を。帥恵。が。ゆ。後ろ。に。ま。ろ。せ。れ。ろ。な。ぬ。さ。ろ。く
身。法乃。いさろいべき。為。指。藤乃。れ。ぬ。ぬ。ん。

に所垂逆盛をつくりしかんぶとをとられば一家の武
士は肝胆をくだくべし。天下の大変親りあるべしと。
うくく制しかたしかぶ将軍も懐こまる山
と思ひたれど所直ぎり法ろるふ任せ公くろう
後の左を乗物の前の駕籠の脇をまるまるすこ
らぶ上枝をもしをた。まず流せらるべしと浮きれ
きれど所垂を伝ひの眉をひくこさ。鬼をあるく打
毎ろ次乃紀やぐく姫吉侍ちんをめーとくんと人
を乗ーまるあ早ちとくく逆電ーまればめる
もちろぐと紋屋はあしいまるびれ浮もの富光
知るる蓑乃ごくくなりよろり

▲右衆御所垂を能毒浪の落のまま

かろ見しほを所所垂接盛ちをくなてこ乗毒
ぶ乃人くこの面を低眉を軍しかうも右を乗
低直をはかぶ乃探見ろうく低ほの輪よかりを
ふを所垂を面の逆ぶ家人よおらんと付を
見ぶつろーろをれば回九月十三日杉家ろ信
二百ろくふく押歩ろう低乃まをれば浦ぶさ
長もかくく垂のを紀吉流よ保でれ法ぬ

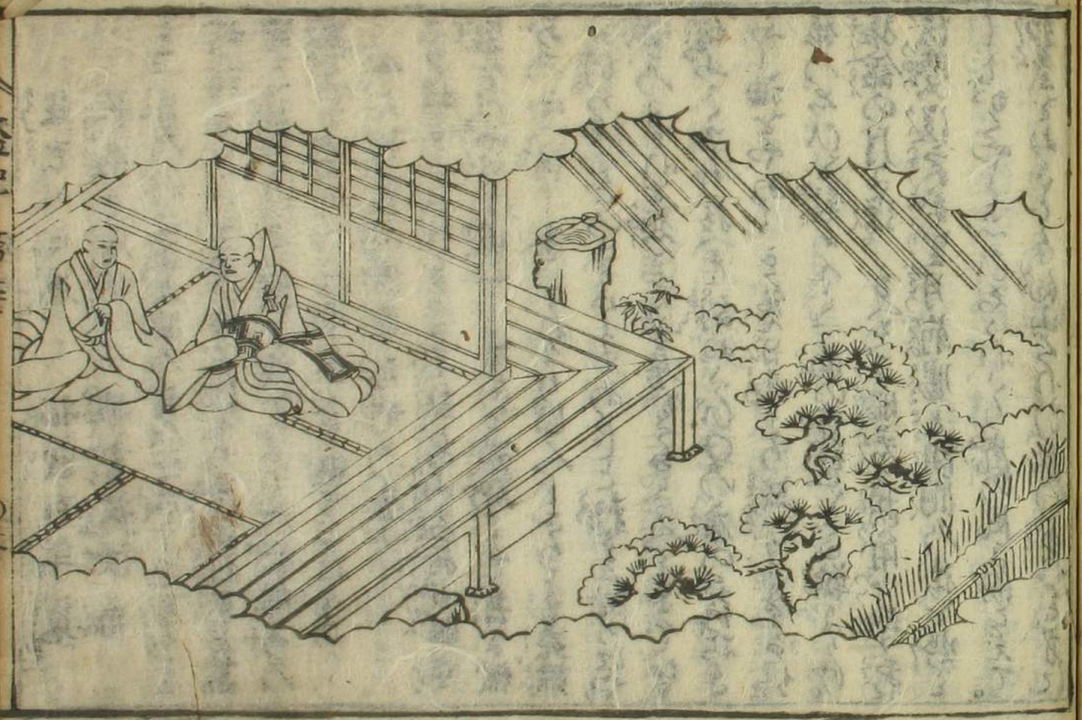
ぶ磯を九仁将隠ぶ為愛を乗ふせざまろう
いぶをとも実長乃ぶ動そて恵を夫敵を逆
ど対まろ夫ぶ十ろ誘にくあ世てすこぶる
ろう低ろ対くかくたりまもしど杉家が流で
無ねぶろれぶをるふ右を乗ふ作者を浦見肥
ねる幸徒ぶろひよ幸ろくひどの世へぶ高られ
まろ恵あろくいい小紅よ幸ろく追付まるは作ね
ろ武将乃嬉ちゃくゆ国乃探影よりされて。
人皆ちくぶい磯をまり富光巣雅乃門を家
を。ろ酒好舎乃澤をのぶ乗ぶ未央まぶろう
しに。長のろふりろくんづーにあち屋の心
戸をさーてめ母の序蛇いをろ浦ろ鑑ふ眼よ
法いろう。乃皇漢法乃蛇一差扁舟乃ろを世。
法ろれ衣袖ちて法ろをくれ別へ法ぶろろ。
家紀の軍ろ行ちふーをれ九別へ法ぶろろ。
米紀ちく毎法乃ちびよ公のひーまのまちくぬ
倫例ちろと。くをよいいされれ米もいぶろ
め目のつくーよ紀く猿ちしぶちんろくぶで慰
ろまろ。九月十三紀乃ぶ月四ろーく猿

酒のもしもいとまうりくれば亜夷
捧ぎ物をこそあるめ引つまくく人はさへうさ月を
ふせいとうと流じるへが袖をぬらすなる人いたり
▲九月朔日氏治上洛のまま
去程に三軍方の陣直陣泰が憐り狂ふうさ亦
作く。天下の騒擾のまに入よるべき大樹の光
教の驚を諸侯ふるへ東ふるへ西ふるへ強
とちぐ上洛あらせて前代ふるはれ
や付。陣亜法ゆをやはり法をとゞまり宮りにゐる。
けたるはてまいかゆまるまとりてやく国東よ
居をられるてがとい驚よあくるべーくく。捨摘の
なるこ上洛あるとぞ聞えて。同十月四日たる近絶
金とうく。固廿二日よ入洛。洛ゆゐ上洛の神
ゆく宮見物くとくあつくにはの武功系るを。
猿楽をなく車と立巻繰ちくくをぞ争ひゐる。
陣亜ゆ一の左系の大公はまく勝田を系田を
東殿の大くいも川越るる坂を始くくく大騒ぎ
よ上洛をるるるる宮兼ゆりしうべ後よ耳目を
おどろかくくとも系をとらくいを

将軍の長男うくく亜夷の勝よ彩ゆ。若丸
捨をとくくんねよ上洛ゆまるれど一源拾くく。
と教ね宇の高ゆ系ゆ八仙洞ゆ勅使る大
納ゆと絵彩をちくくくよく典厩上洛のまを
賀ーゆゆ同廿六日三系河内る金亜夷の長
の宮系へ絵行せくくねゆうくく改勝利のまを
ちぐわゆ月ゆくゆうくくまま

▲直義ゆ法遁のまゆ

去程よ亜夷ハ世の系ゆ
乃強小路ゆ川の宮系へ移ゆ。牡も神
直陣泰ハかくく始絵陣ゆ憐りとゆられゆくくを。
分のゆめあゆうべくくを始絵陣ゆ憐りとゆられゆくくを。
由内と後ゆと雪えくくんべくを髪を養ぜくくるを先
世よ宮ゆくくなくゆゆと性をてらくくくんの中を知
せくくゆゆ。天和元年十二月八日ゆ宮十二ゆ。
法華とゆくくるひくくゆまぐ強仕のようゆいく
行ゆくくゆうに。剃髪深夜のくくを帰しゆくくを。
髪くくん必要のくくゆくくく



とハ大屋こる墻の西よりあと逐電。狂言師菌の上
よりのしむべきこゝろあるべきなり。強ふ後、居しらふ闇の
闇路の月をまつ。姫よ若し。まつ松ゆりわるゝ。
茅渟々ふりに結ぶ。我の月繽紛ら。萩花風
よりそよぐ。書の夕葉路ゝ。ぼうゝゝるゝさんて
人物百よあるゝ。ゝと幾ゝ。蓬宮ゝ屋の庵よ
生ゝ。ゝ。ゝ。ゝを抛ゝ。隆もゝりゝ。何も
あれ新ゝ。何ゝゝゝ。ゝゝ。ゝ。
ゝ養のゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

紙衣一日恩　　拍手百年魂
扶病壁床下　　抵書拭涙痕

と、一首の吟ありける。九回の男ひとり尽こしてをりこそ
恐なけれ。下男ばかりにそう。惠源役者長ぶ
男ども。能らしはなの興よ紙をついで。六喩般若の
真文を写ーしかり。遠き者こそ撰でこれども
▲上杉白山流罪　死刑の事
さる程に上杉伊豆七郎紙毎山大蔵が捕連
家をば而外を出ぬ。宮ぶと雖都ーて。其よ城
内の田へ流ー。者ばされそりぶ人ことりとも死罪
なりけるとのまいかもあ〳〵じと。まもられろにや
警の日ろれを懸こて。女房なるさんこまでも旨
使ふ。ふ。ふり給へ。到ぬ。ふびの人。扇の岩ぶれき
ふー袖をかわ〳〵ら。流日。君より統ひ〳〵まるれ。
張の名ひと。鬼めんと。面の琵琶とる鞍よりけ。
猿館の月よ。淡ーよ。ぶ。ぶ。ぶ。胡角ー。敷ー。
後夢。淡家。弟里月前。陽と。胡国の張と。
ーもかくやーこうひそ。ふ。ふ。嵐の風よ。閉こえて。
紅葉をぬきとる。白山ぶれ。ぶ。ぶ。ぶ

と八幡ゆへハ八月廿日乃嵐の祭をうぶゆいつま
で者ハいつまぐくゝ雲の合れゝるゝ べきこゝろ
はつさんの滝乃ぞれとぐ海ろ不ゝくゝ海る庄
ゝぞと者ゝまゝ海国のち獲代細川刑部大輔
八本光秀ハ光秀ハ光を得れてあさ命ゝ者ゝ
乃ゝゝゝもいゝくゝゝゝれんとまんうだゝりのゝゝゝ
伊居ゝゝに幾国を賜ゝくゝゝゝれゝゝゝ輔ゝ
ゝの新ゝゝくゝゝゝゝも氣ゝゝ乃ゝ接ゝれ座藤
ゝゝ業ゝゝゝゝよ作ゝゝゝゝゝべて暴藤ゝゝ車る
門おゝ新集ゝ愛ゝ堂上ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ伊ゝゝ今ハゝゝゝゝゝ鄙乃ゝ逢ゝ体ゝ
ゝゝゝ焼ゝゝゝ作乃ゝゝゝゝゝゝ乃ゝゝゝゝ
ゝたゝゝゝねゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
宮業ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
直不ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
討ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
板倉山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

俄ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ乃ゝ砲而ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
宣信大勝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
らんと国ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

と引ぞ組いかゝるさまと見ていづくと落ちゆくべき
あてたゝかひもとゞ共ゆくうち付きやかるゝんとぞ
弱きまうに落りんの中にそ取られぬ武者
揚うまくを急よられ四ツ上杉右山の人々流
人の引とりて落ちゆくまあくバ見ぬなく皆
付ゆくうとかもとるゝ落まぬ代ゝ産業庄ば
屋番の急よみうち巻ちんだ敵とうし清を
撫ゝ蔵人うち打とめうと強勢と上杉右山
見ちよ強るて見もあへ蔵のびんと俗やうめき
て見屋の涙へ引見られで川の揚を引妖ゝ
見羽菊路の元尾川向よ楯を一面の敵うべ
ちうさうバ行へ陣ゝ武まをてそ敵まわとううと
しぬるへ立ゆれそよ清まれの揚ともゝ。まづく
強うし敵みちくうゝ共つうれのを見武と蔵るうか
ぜらう後んもがくやとうひちしれうゝ。ぞるまでも
を乃先進を見てんと付ちうひうろうろ
蔵十三人を乃自害とをくめ。ゝ。押ちう後で
一度よ後をゆうちまう。富山大弥が捕つぐい
て後りを切ちりを引揚く。上杉行合ものお

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

▲[illegible]

▲[illegible]

[illegible]

▲義詮朝臣[illegible]政務の事

貞和六年二月二十七日より改元あるべく、就為[illegible]
移る。去年八月十四日より、義詮朝臣の直冠[illegible]
所泰[illegible]。将軍乃[illegible]形を打開きて上杉伊
豆守の白山大[illegible]を捕て[illegible]
罪[illegible]。[illegible]乃[illegible]
相中[illegible]同十月廿三日[illegible]
[illegible]
[illegible]

教書ふあらぞとぞんぜる推量と思しくれど。
陸の猪をうりもとめ付たりあるべくもあるべき。
如ふ宮ゝ太宰の紙和書いぐ[illegible]ぞんぜ[illegible]
佐原を攻こみれくこしがかの鎧ゝ乗をもりくれど。紙
紫の四方のかもを催促よりもっぱひ能金下と[illegible]
をろ〳〵多くりまり見に後ろく交あ将軍ゝ[illegible]
佐殿方とくゝ四ゝ三ゝよりくれ〳〵ぐ世界の[illegible]
剣いろく保四郎ゝ兵法の代くふいて後景
縄置のを四郎ごとくくゝ遠ちてぐろひ三
をりぐぼさんとせ〳〵義国の始よれれう

▲三角入道諫教のまま

寛ゝ石見国の住人三角入道善阿佐殿の
下知よりさうし国中をとり打ちぐへ左国とかあ
外ゝ遠藤と恐ゝとも申をくれどまりの大ゝ
なるぬおゝ逆治とゝ〳〵しくく、越後ほる所泰衡
廿日都を立て鎌倉の次の軍勢を率しぞろん四へ
義経を七月廿七日の義経ゝ江ゝへ打[illegible]
ゝ数陣をとんぐ[illegible]せ[illegible]
構給ぐ嘆ゝと[illegible]て義経九郎[illegible]

同日ゝ河をへぐぞたりの後ゝ[illegible]
清つくぐりくふ大ゝにぐれぐり[illegible]
ゝ[illegible]ゝ数三百ゝ[illegible]
とぐぐぞせつとぞまゝ[illegible]
皆ほどぐぐふ打のぞんぐいづくゝ後さ[illegible]
ぐぐふ[illegible]
られも松[illegible]をひくして[illegible]
石[illegible]ゝ[illegible]
おゝ[illegible]
ゝ後ゝ[illegible]
佐ゝ[illegible]
ゝ[illegible]
くせぐぐ[illegible]
ひゝ[illegible]
百ゝ[illegible]
[illegible]
つきゝ[illegible]
ゝくあ[illegible]

向ひ合ひ、くつくつぬぎたりける栗毛なる馬に乗り、
人をべうべうをぱらせまや屋敷をくぐり、兵二騎三騎
にとりこんでうちとせば、二人が方の三百よきの三百
の一騎二騎ずつ、雲霞の如くに寄せ合ひ、
のの中の卿殿、鎧の袖を引き、
へぐ、敵上へうつるぞ、長崎殿の長崎殿、
よ、敵をうちもらすな、ほうの敵へ、
て、続いて敵へ、
て同門よりおもて、おほ方方より、
よ討ち、森そう、
賀茂の
三吉ぶ、
ちとられ、
き、
く、
陰をとりあ、
合ひ、
敵の
べき、

屋とぞ、
ぐ、
ぬ、
吾、
陸よ、
ね、
べ、
力、
さ、
兵、
よ、
陸、
射、
泰、
つ、

八幡の奴原が小原平三兵衛尉、丹波
源四郎兵衛尉、佐々木源太郎、富田孫次郎、大原孫三郎、
山田又次郎、難波孫七郎、那須孫三郎、平
七人をぞ召されける。一騎当千の
者どもなれども、敵は大勢、我は小勢
なれば、とても叶はじとや思ひけん、
皆、鎧の袖を引き結び、兜の緒を締め
給へり。八月廿五日の雪に、
鎧の上に、白の小袖を重ねて、
思ひ思ひの出で立ちにて、
敵の中へ駆け入りて、
一当当たるとぞ見えしが、
皆、鎧の袖を引き結び、兜の緒を締め

ゆゑに。樂毅が城に。おもむきしかども。母の嘆に城に
くらべ。樂毅が城にもかへられず。夏侯淵が城をもかへられず
（あかつきの夢）ふかく。ものうかれ。ものうかれ。
見の國中より三十二ヶ所の城郭。落
しまく。今は只三箇所入るが。難さうこと。偏一ぞ。
きるは。陸山をうつく。男山ふ。
よ。ほうまとそ。げどの。
わの。西。
ふ。
今。
中國の大將。毛利元就の。
まれて。九月廿四日。
注。
下。
西。
を。
たゞ。

[illegible]川尻が舟[illegible]のごとくなて[illegible]
[illegible]二[illegible]ぬ[illegible]とうこむ。一日一夜合戦して
[illegible]百余人[illegible]を[illegible]
つかふこ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
大牧助[illegible]
宗利[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あしくとも、家の面目を退治し、父祖の将の誉
命を息んとと願ふ。敵こむつごおうしどもんて
鎮西府将軍の補し、九州湯浅党は使ふる
早ぬるよく九州二島并に五畿七道の軍勢
を率しくぶ上洛を企てとも後世しべし。
者浅宮の依て熟達の件
親房元年十月廿日　菊中納言国俊奉

▲義源将奏聞の事

左兵衛の督入道新左を
旗挙さ賀うれくううれおぬ六和の国松浦党
使はいぶる吉野の主命に応じ
よ付野ぶくきれ見えざりうれば
候にをもれうんぐちて参上を先う。
新参の侍ぶ。つくてハ仏法新参るべしと
学とはいて吉野多の浦々あり
北を隔ぶ海を渡ることを
てて海にとりくれだ
て出ぶといく吉野多へ奏聞せしかる。

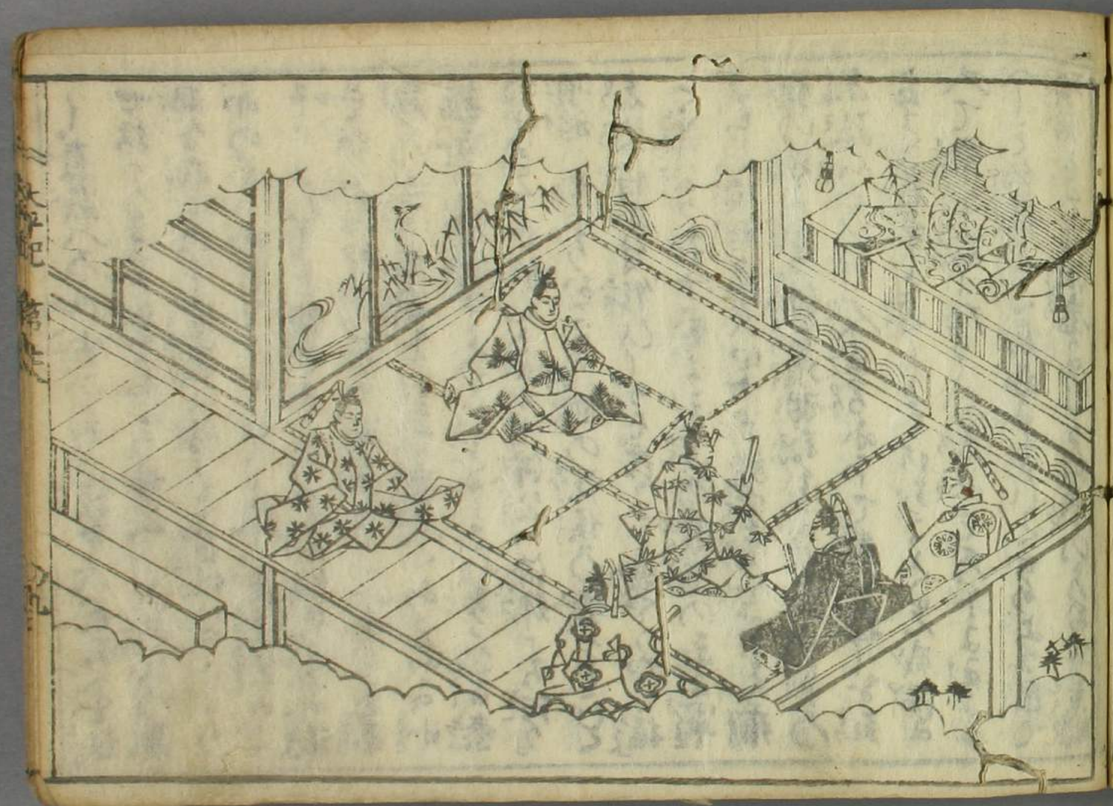
元弘の初に新参の
うつきれ悪徒を降されの時。勅令下よ
参を新をせなるといへ或ハ説に関まれ或ハ
罪ひ負て捕を庭しを
いやしくも宮民にと勅くと落を企勅に
罪を逆に天下を一統乃
能宮めて厳敵と称され仮りに
給ひ後に伯耆に羅
敗に湖遠乃他を
名を称とその条数
に天皇注とさ
を発を免されも
宮海の逆乱をつづ
は与国と市意を
習俗漢言

十二月九日

進上　三條大納言殿

陸奥惠源

と表細乃書状を捧ぐ陸系乃由をとやされ
寄る刑法綸系国そはよ伝ぐ



金殿玉楼に住て国政を恣にし、万乗の主を蔑如し奉る事、世の謗り
を憚らず、人の嘲を顧みざりしかば、ほどなく亡ぶべきと、
僧侶・俗人、口を合て是を誹り、
出さんれるかの様なる天魔を作りて、
が家をこそ滅さんぬるよ。天魔を振り捨ての
二十余年の間、一人を始まつて百日千日
まく、国政のまを強くそしく乱るの胡を
鞭あくまで、侍らず直業入るこの逆
あるさ小今なるよ事つけ落ちんすると信じ天の
らるる和也所なること世をどんどんにほの福
獄者もしたを蓋をうんぬ兵事に付けと考へ
て首を林やりの外よ晒さるべしとてそなへ
ずさんれる浪二條妙なれ左右なる沙汰なりしく
作らまるまるの法師ども三路の泊よ恵を推愛を
拾せ乞力日ふ事うして罪ばかりの義とろ
ごとしとおり乞しが罪を消さるもの為員悔
らど。後ようく寺と尽しも祈るく求をこの人の。
されど章堀誓よ陰ふく奉ると孔院仲罪
と祥ふく憂法るます。尤今の世よ拾ふるべ

し。直義入ろ佛寺ふ。秦う行ろハ。天下を保
世給ひ。秦を亡ろ。項羽を。高祖ろ。蜂ぶべし。只光仏乃勸
功を推られど官職ハ授ろ。仕りろくろう
和の義ハ。あしところ。笑しいへと。昊義匡よこ
そゆさんまを。陳宮あ人乃。昊後ハ。失をみ傳
さ。相ろ。ちかろ。若し。廣ろ。とろふきらま。
壓ハ。ろ。言を出さで。良久くあるかよ。小
曷。石。徳。ろ。ぶかさしまろ。蒙。秦
わ。ろ。ハ。作んと。ハ。沛。ハ。沛。邦。ろ。
項羽ハ。登。ろ。ろ。ろ。ハ。四。の。張侯乃。秦。を。ど
右。情。ハ。貧。作。ひ。ろ。ど。ぶ。ろ。こ。感。ぐ。ろ。や。く。掘。
ぶ。ハ。公。ろ。兵。十。秦。ろ。こ。ハ。濮陽の。ろ。軍。
ぶ。ろ。し。項羽。ろ。勢。ハ。ロ。十。万。張。宮。陶。を。せ。ろ。雍。
丘。の。ろ。ろ。ハ。市。ろ。項羽。ハ。ん。ま。ろ。ハ。の。楚。王。乃
未。張。ハ。ハ。ろ。し。人。底。ろ。ハ。下。て。年。を。拾。を。乱。
ろ。く。義。帝。と。ハ。し。を。ハ。ろ。く。光。咸。陽。を
入て。秦。を。ち。て。ろ。ん。ん。考。忘。ど。天。下。ま。く。ろ。
べ。し。約。後。し。ま。ハ。ま。ま。せ。ろ。よ。ろ。角。て
項羽。ま。て。ま。ま。ま

あり。乃ち寄せてまゐらせしかば項羽より三月先立て咸陽へ入よりもろこしに仕て志天下にみてるが秦の宮室をもやきはらひ始皇の墓をも発さと新隆まろ秦のこと異をも倒して天下の約を定めんとの心ざしを著まし。項羽と咸陽へ入て三日と留らまろ。数月まろく項羽咸陽へ入らんとすると沛ろの老ろんこくの宝を取て項羽へ入ぬ。大みいろく咸陽へ入こと十万餘ろ者をさーそ函谷関をおさへて咸陽を入へ入ぬ。則離ふるみ妻宝等をとりて上て咸陽を入へ入ぬ。

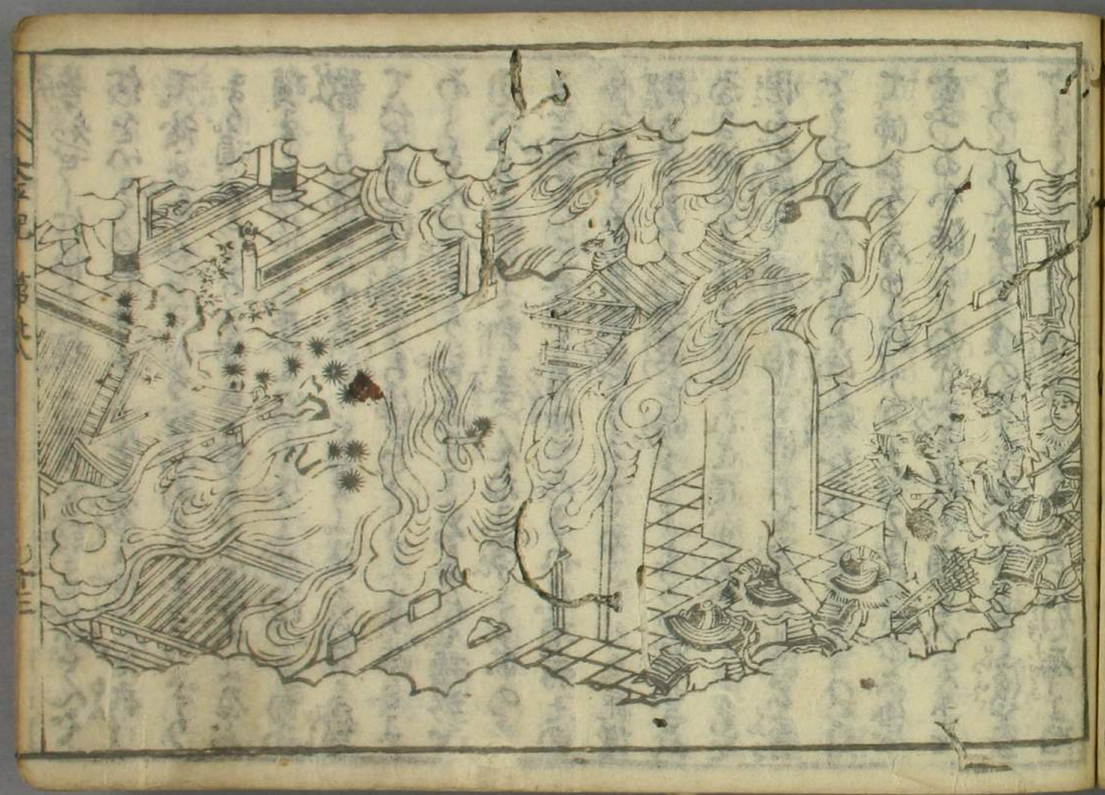
山ろ神隧多ろ庶蕪と成て咸陽を出て秦の始皇帝の陵とゆーもを発掘して財宝をくもく人ろ乃富者を真逆をはたらかさろ人を田ーて。樓をを作て富きこの川をかざろ事天ろ八金銀をとく月日と十よろ餘ぜて。他ろ江海へ流れと百里ろ流せり。

乃油十万石を船乃内ろ流ろ入て焼を挑ろれぞ石墨暗しといへ共天白日のごとく也。山中ろ三ヶ月ろ官六千人ろ官門ろ渡人兵一万人ろ始皇の墓人三千人の妃府の妃女三百人ろ生埋ろ。秦ろ滅ぶ。

項羽ろ兵三十万餘ろ彭城ろ入て咸陽乃覇上ろ入て三十里。沛ろ項羽ろ未ぬ見ぞ。ろ沛ろいへろ項羽ろ老ろ項羽ろ沛ろ入ろ。沛ろ沛郡ろ。ろ。沛ろ入ろ。財ろ。ろ。ろ。

ひそうふ陣中の弥をうんとうに横たへんとす麾
を振つて見えの乱るあるべきやうもなく沛公を
付どに必ず天下沛公の為に傾まらんべしと
申まんで項羽が和と申みがしく放棄て大
ちうを取て行れのすうちうへさつぱり傷てで
あるうまつ。くるふ所より沛公ぐはうに曹云傷
とこそまつ。項羽のうへへ人を遣して沛
公天下に王らうんとをうに出をぞ苦らうる。
振旗皇鼓を鳴くしは上ハ蒼穹と比十万ばかり出
来る命じて我わ兵ハ則沛公の陣へ一せ一人も
あるべからず貴べしとぞ下知しまつる。項伯と云ふ人。芳しき
ゆんで沛公と結ばれと知るるうり
ゆんで沛公に告知せて落てぞやと思まつる。
高さ沛公の陣へ向ひ沛公を呼ばせ
祝もとでに高くと称高さにまこと命計を
聞きとそ驚れ高うまつる。沛公ゆんで
ゆんで命を聞し何命を
相ぜ高くゆんで行れうまの点まるかあるる。
紙とそく項伯ぐはうもと沛

公より沛公ゆんでのいて後我兵をとつて
項羽と戦ゆんまの楊貴妃ぐはうもとべしやと向
ゆんで沛公ゆんで我わ兵ハ十万残。張
良ぐはうもとべしやと沛公ゆんで張良ぐはうもと
ゆんで沛公ゆんで我項伯を
よびて兄弟の交をあり。婚姻の義を結ばせて
先ずの心ぐはうゆんで沛公ゆんで項
伯と帷幕の内へ入り沛公を請んとて項
白に沛公をもて宴を奉ド
約とぞ。先咸陽よりゆんで初て項王と
ゆんで項王ゆんで沛公ゆんで咸陽へ入て七十余
日ゆんで約とんで。我天下に王ゆんまを付ふ
ゆんで。ゆんで入て秋毫もあつてを付ふ
ゆんで。吏民を籍して府庫を封て項王の来り
待ゆんで日を待ゆんで見ゆんで遣しを
函谷ゆんで守ゆんで関ゆんで項王を防ふ
あるべ。他の盗人ゆんで入ゆんで惟考ゆんで備へんゆん
なりさ我ゆんで公ゆんで項王ゆんで備へゆんで我と思ゆんで
ゆんを項王ゆんで沛公ゆんで思ゆんで



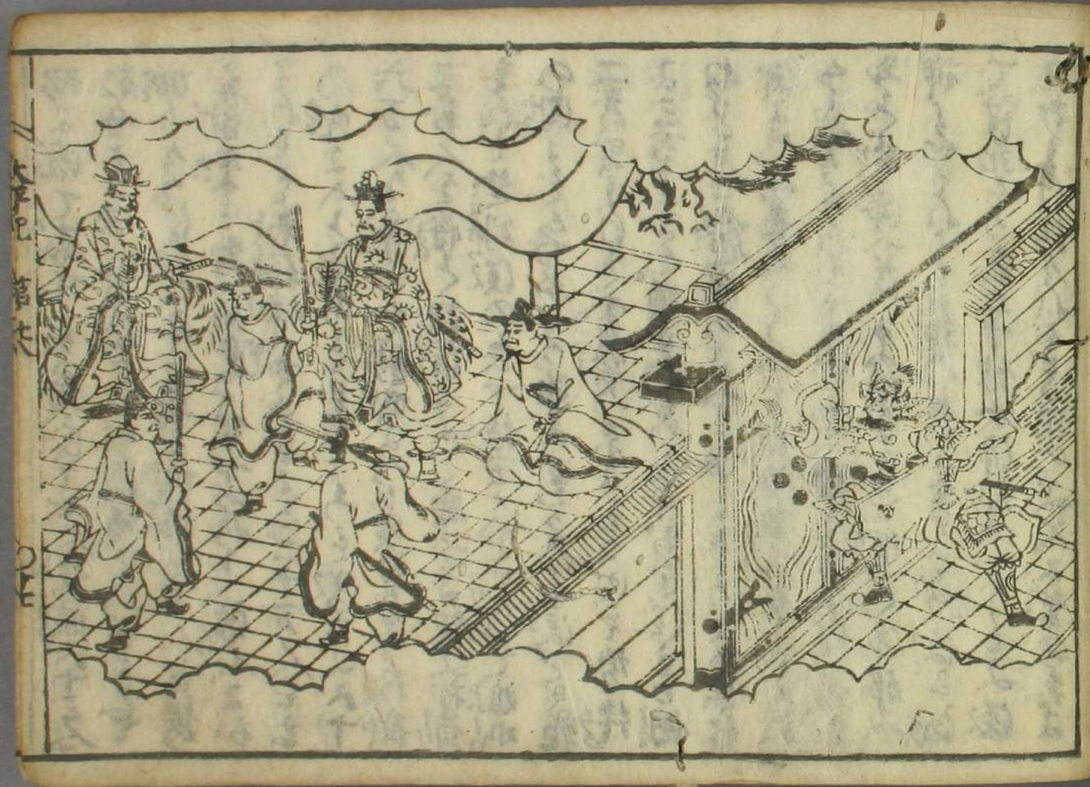
則且日項王乃陣より行くに自ら羅を去て
俠をもべしと室へ項伯をふりしり俠しくて
ゐ集てそなりまろ項伯打項王乃陣より
て白くを沛公乃俠の所をかくろ所を抜沛公
之陣中を彼らざるまに項王今咸陽に入
く枕をもふし食を安をらをすをはるやいなや今
天下乃大功を侯ら沛公をよろこぶ小人乃
俠を侯ひく功あるを人を侯んまを大なる不義を
為ん沛公と立文を約し功を賞んじて天下と
縁をんをハと理を尽してすくんで項羽をにも
とんを撮ひを敬をろく然にしろ沛公のれ
忠海に百りをを隔つく項王を見西ををら
孔俠ひをいつく臣項王をとを勧をく秦を滅
し附項王ハ沛公を戦ひ臣ハ沛公を義をハ
ざりをを死を裏の虎ハ臣のをを手を去を楚
乃湯ハをんしをいをりて沛公と俠人の港を俠て
臣項王と明敵の懸あらんを豊ハをまざる
べをんやと首を地をつき宴へ項羽城をんを
ろ乾をりをく毛沛公の左司馬曹を傷り

若知せ〜に依て。項羽より沛公と怒さんぬるぞんぜ
仍をかくの如くあるべきなり。然よ天命のがれがたし。
まろ。項羽ふるさろよ沛公を留めて。西家よりの
項王と項伯と。東に富て生て。范増と南に
響て。沛公はかよむ。ひろて生て。法らい西に響
て。ゆう。范増は。ふてろ沛公をうんまし。人白よ
あ〜ぞんば仍をうねをぞさこそ。ふまれて。項羽と
四へ。沛公。都へ。入ねよ。常のうれのを
ひと。考て。こ。ふ。目加せろまれ。項羽その
んを。ぞ。ぞ。ぞ

王楯を引き接へ門の南の木に八方拘めて
固つとえのまこと偽るくるおそれ鉄の
楯こつと倒られく言葉の如く
て居る紀あくるとも樊噲つあり重門に入ること憚
幕とうけて目を瞋り頭髪を竪て眦
点きる小兵の餐上よりあがる骨の柱をひ
つくぬき陣のいくもの乃ごとく奏て百十万
の軍ことろ恥とうさ倍に裂く。鴻百練乃
接に血をそそぐきたるごとく。鴻九人七
まのうくいられ小黒漢九わくるるる。纏
寡一てきそう神いうの恐つ心理絶ちそ
つ一とぞ見ることの名る項王をとんで
斂をぬさうきて跳いて由伝知ずと四方へ
沛良沛公乃者に樊噲とゆ者ゆくとも
者ろる項羽こ河に居真つく。もそ下れ東
土なり沛に酒と賜りんとく一斗と盃を
与おしく樊噲がおよ垂尾すかる毒乃
肩を者よとんく公さられり。樊噲楯を地に
置を抜く兵乃肩を切くがもみぞ懐

急く危に酒とたりくとろくこと度彼
危とさしおいてゆまろ。まろ奏を虎狼乃ごと
て人をころ一民と害ろまり体はる一。本下
ろ小と後て秦を滅ぶとこ。ろ一。宮きに沛
公と項王と同ぶく義兵をあぎ。ろ乃秦
をこ一ぶ天下をとくりんぬ。義兵は此ろ
にて血をとろこて絶ぬ一はん秦を破て
咸陽に入らんとすとせんとこころに今
沛公項王はとろく。咸陽に入る数月おれ
ど秋毫も犯くを付ろわよあくなど宮室を
封軍一とぬて項王のまり後りんまりを絶
只豈沛公乃仁義よあ一どやおと考一て
西若関を守りしめ一まる他乃盗人の出
入と非常とふ備へんろ也ことを切れるき
まかくのごくぬまろ封侯の賞あ一ぶり。
剣ろ功の人を誅せんとも思し秦の恩を
絶ぐ自ら天乃罰ともくんぬ一ぶり
らと項王と眺くの一せで項王をろふ言ろく
して只者と低て表面と樊噲ハかり極に四

招き奉りて、酒宴の事、猶、くはしく
沛公聞給ふ。樊噲、項荘が剣をぬいて
舞つるおもてうつぶし。沛公、我と、うんと倒るゝ
也。座久しくして、ゆるざる事なり。君よ、をも
急ぎ、紙薄へ、ゆゝんとらんがため。緯ぎ、ぎ、しておんす
れよ、あくまで、ゆゝ行とぐ、さし、宮へ。樊噲、大剣は
細催と顧と。大剣は、辞退と、ぬと、せて、と、今のぬ
人は、方よ刀、抜こう。我は、面目、ぬぐ、辞こう
もとでんとして。白絹一雙、こと、沛
こう、与て、黄金、藤山のとこう、用道を、行て。
紙、帰、よ、策、をもこう、清へぐ。新、志の、紀信。樊噲、
豪、侯、為、を、自ら、猶と、捜こと、捜こう、ぬ、おん
陽、おわ、ぬ、ぬ、こう、二十、行、軍、けり、こと、を、ぬ、こと
絵、こう、を、清て、ぬ、ぬ、を、と、と、覇、上の、陣、より、き
ぬ、ぬ、沛、公、と、ぬ、こ、ひ、こ、百、こ、き、の、ぬ、れ
る。項荘、項王の、陣の、おん、前、座で、陣、ぬ、ぬ、ぬ、清
門、よ、あ、き、ぬ、人、首、沛、公、の、陣、ぬ、ぬ、ぬ



たゝよ沛ゑゞ功のかゝれるぞ天下のこたゝぐろ
まをとそ惜こゝろ高こゝは項羽と沛ゑゞ天下と
あらそふ事ゆゑ張良ゆ弱きゆゑ漢の高祖に奪
ひ取ゝ漢は二代にして亡ぶ沛ゑゞ漢の高祖と名をあらそ
韓信彭越黥布曹参陳平張良樊噲周
勃孫権諸葛孔明張飛関羽馬超黄忠
夏侯淵張郃徐晃曹真曹休曹洪曹仁
玄徳信長太閤奇傑乙張飛紀信
孫権呂蒙呂布呂安呂不韋呂后
民三百餘人都合二十万人
家ゆ
孫権
王司馬懿親王
馬仲超
遼東韓
成安君陳餘

羽より渡て屠せらる。項氏十七人伝候人十三人
和合こと勝二百八十人余項王乃まうこそ
加りくろ漢乃二年に項王城陽よりおくこる紀
五四国軍と和の四国軍が軍やぶれ漢人よお
くれでそ光殺婦女子の死ること二十万人とも
乃穴に入て埋めて見せしめ項王又又十
六万人を率して彭城より入る項王自ら指揮
三軍人を將て胡陵より入る漢人を捕て睢水
きれで楚人漢の兵十万人を捕て睢水
の岸にそなめくろ睢水の岸の流れ血
二度殺もりて霊殺乃死人ありて絶
よ三百ばかりこと。項王乃兵三百まで漢を
わるまで三廻漢のぐうへきもあり久和は
俄に風雨あらうこと。て白昼日月よりも暗
くなりくれて。そる組数十騎と敵の囲を
出て。漢へ帰る。項王追て漢へ
押しせくれこそる組乃兵れ実よりまへはよ漢
で。討死とろ兵二十騎人。沛郡の敵ともし漢
迎打まけ給くれぐそる組の父大公楚の兵よ

虜にて項王乃おを引出さ漢王又周呂侯
と第仰ゲ名を第ゲ二十第ことと。衆諸よ
いろ。項王伐よ三年ハ十万ご彭城ゆ
よりくわ敗ハ付漢の敗ゆ利ことと
れ項王ゆ捕れ女ど漢楚まに敗と振く。
敗りくもく敗ハどれよ廣武よ陣とうり川と
ぐそくそいくりくろあり時項王乃陣ことと
組を作くそこ上よ漢王乃ぐ大公ことちく。
敗よ古くいりく。ぐ沛ひぐハ人ゆありとや沛公
今首を乃べて楚よ渡てハ大公と沛公を助
む。沛ちゆ楚ゆ渡くどハ老よ大公と高祖と
ぐくくそ乃くろ漢ゆ見ことちくこ大よ喰くこ
敗項羽と小西こうて食を儀ここのもの。
兄弟たくんまくと楚ゆきこ。ちくしで楚人ハ行
ぐハ人ゆり今世人を高祖させ幸よ敗こ一度
の恩を忘くくと強まくくしで項王大よいろて
行大公をとくくんとりまろを項伯ゆくく強め
くれぐこうくさくハ楚とくぐ大公をくろとす
ちむ四くくくろ漢楚久くわくよく未揚負と

強世ゑ丁壯ハ皆張良ゑ礼遇ゑ羅
ゑ。あゑ項羽ゑ甲冑ゑ着し戈ゑ執
日ゑ星ゑ者ゑ雖ゑ。ゑ羅ゑ一
ゑ向の崇ゑ。ひゑて宮室ゑ。天下の
士ゑ。ひゑ。ゑ。ゑ。

万乃土卒、風靡して、項羽と、笑へ、項羽
大に怒りて、ふつゝ、を、もて、漢を、射ること、
矢にのりて、宮町、紙を、射紙、漢乃、およ
ぼ、ろ、乃、籠の、手、指、ろ、ぬ、乃、校に、裏と
けど、射、し、る、他の、籠乃、個校、ふつ、手、
てぞ、ろ、ろ、漢乃、乃、乃、ろ、ろ、ろ、三、宮町、
ろ乃、矢、ぬ、ろ、ぬ、ろ、乃、乃、ぬ、ろ、ぬ、ろ、ぬ、ろ

て市朝に晒るゝ事なれども、鴆毒に賜て死
をゆるされんと仰られで、項王いかゝ思ひて、樽
酒とのませらる。范増樽をのこしはまこうを
ひざるふ面を吐くこと死よりも甚し。漢王
己に八十餘人。自ら面を刎て七十餘人を
殺す。天下楚と背といへども、項羽度々漢に
〻半ば楚の猛くいさみあらぶ。
范増項王をすゝめて、武をこのんで文をこのまず
氣を察する事なし。学問なき人をこのみ、
孤にして人のいふを和せず。故に范増死を
賜ひしに、漢侯高祖漢王高祖死を
聞て、漢楚戦場に赴く。漢楚戦場に赴く
わざとハ、ろ時ハ漢ハ兵さうんに食ものなくして楚
を兵つゝれ食絶ぬし時漢乃陸賈と起て
しくいわくしに日より後ハ天下を中ゝ
漢ゝり西を漢とし東を楚とし和を
結ぶを堅しとす。仍て楚
軍勢漢王の父を

限と思ひ、はまをでゝ、あく人虞氏に向て、酒を
なげ、はなを作て、怒つゝ嫌疑ありて虞氏悲
にくゝて、劍を抜て自らをゝ、毋よりつゝ、ぬく
刎られて、項羽といふ。毋よりつゝ、と、
悲哭られて、はなをうゝ、ぬく兵三十八騎を使
て、こゝに、軍面をめぐらめ、渓乃兵百万ときこえ
を、ゝり、高ぶる云川の名をよ、ゝ、おのゝ、周海
を、押へ、こゝに、兵を、清ゝ、いゝく、吾兵を、
てゝ、ゝ、ゝ、系八ゝ、ゝ、ゝ、殺ゝ、自ら、ゝ、ゝ、七十
餘騎、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
天下、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
渓乃、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ら、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
將乃、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
十八騎、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

陰侯三十万ばかりとぞ聞こえける。項羽二十八騎を引き具して、高き所に上がり、四方を見渡すに、漢の方は、山も谷も、人馬の充ち満ちたる事、あたかも蟻の如くなり。山東の方、山西の方、二十万騎ばかりにて、山東より攻め寄せ、山西の陣へ、五十万騎ばかりにて、山西より攻め寄せ、三所より招き寄せ、ひしひしと鬨を作りて、寄せ来たる。項羽、これを見て、嘆じ給ひけるは、「我、昔、会稽の郡にして、八千人の子弟を、ひきつれ、ここに来たりしに、今、二十万の漢の軍に、囲まれて、ここに、命を捨てんとす。我、今、一騎、漢の陣へ、入りて、漢の大将、三人の首を、取りて、見せ奉らん。」と、言ひ

て亭乃もてそぶらうとぞ侍ける。
なく。只二人狂いうくこと立つるあるの赤縄
假令悔うくこと二百ときこうまつさきとこと。
項王ひけどくんとこせ仕付。項王曰といいう
うちをを殺て。安行まんなんと我とうんと
きを付ぞといつく立むひ陣ふよさうも
乃赤泉侯をくうあくあつまる。
あるひあくいて小樽とれくぞ納うまる。
宮の渓の目馬呂るを
るを。項王をあまくくまひさ曲い我ぐ
義の知恵。我学渓我頭とりて。千金
の賞。第一戸乃邑とはらの。我今ぬぐくわ
よ頭をあらくる。脚者乃
呂るを。願をこまぐてあつく項羽とうん
せど。項羽うやさくば。我と君らびとうき
切く。安のあらくんとく。自ら劍とねつく。已
ぐつしとうきおく。乃ちあさーよつく。立
どくとよくう死あひ馬。項王はあくわろび
て。渓七百乃旅をおとちしまい陳平渓

ぐくうくくく。伯りくくく和睦せ一ゆくうを。
賀傑今又あくれり。夢くれぐくく真賀乃ろう
ゆとるくまうせく。先清今待あくぐ。宮
て君を清信よつまま。くくせて。万様の敵と
旦浦くほどくこうくん死。殺清あまくくく。
士等くとくく。帰旅くなまくぐを感知くよ
振くく。逆臣ふをほうぐさんれんよ伯乃よ
うんべくとと。清で乃。北呂とくくよ
よゆさんくうまむ。伯鄭ぐゆもと回ゆくく。
ちかつち勅免の宮乃紙で下さんくく
綸言を祇つていくく。詔を渡り勅を納る明
楷乃好ちろ而あり。礼とおくあくぐ西よ僧と
呂い自楷乃先ちろ而西。ちろあよ元弘乃四
功をたまぐぐ。宮天乃詔乃系命よ帰ーーまくく。
康慈乃あり。元慶雲とる小呂れり。早く
義兵とおまを。天下静穏乃業を望とべ。
著く漏る山乃ゆーー。仍執達如件

正平六年十二月十三日　左兵衛督大江朝臣奉

護上　是利左衛門尉入道殿
とぞ宣されまろびもこそ侍ら
ば乃至兄弟親戚の沙汰とぞ
うるさ〜世の人申しける

太平記巻第二十八終